

佐藤訪米阻止——羽田現 地斗争派遣部隊なるの 報告

全市大の学生、院生、教職員諸君。

去る昨日朝、佐藤は、三万五千の口實兵力を後動隊に守られて、完全にロソワウ
トして首都東京より、アメリカに飛び去った。佐藤訪米は、沖繩返還こそ、非難の
日米共同前線暴風化による日米反革命同盟の保障のミナ坪保化、核野保化であり、
羽田現地の決定的内幕である。

戦后帝国主義の不均等発展の中で、西ドイツとともに相闘し、国民総生産之位の生産
産力をそなへるに到った日本帝国主義にとって、激動するアメリカの副産と市場として
の開拓は、まさに、その死活をかけた要務であり、沖繩を基石とする日米反革命同盟の
の強化こそ、羽田地の日帝の命脈をかけた陣口には及ぼらないのだからこそ、佐藤は
いかなる犠牲を払ってでも訪米する必要があつた。たし、だからこそ、われわれは、いかな
る犠牲を払ってでも訪米を阻止する必要があつた。たし、その意味で、11・17羽田現地斗
争は、羽田階級斗争の最大の天啓ではけいれはならなかつた。

全市大の学生、院生、教職員諸君。

われわれ全市大学生は、ほぼ以上のようは相闘に立って、首都副産——羽田占拠斗
争にび名の部隊を派遣した。そして、現地にありて、何れにこの斗争に参加した
諸君とともに、何れの名の部隊をもつて、東京斗争に参陣したのである。

11月5日、日比谷集会——16日、代々木公園集会——東京朝日モを、いずれも権臣
的は権力の機関、警備とほけのけ、警備として發行したわれわれは、16日夕刻、再
田町田にあける憲兵を、数名の運搬者を出した。しかし、それとひるむことなく、
われわれは、ホア種と警備としてる現地を突破し、羽田に直撃を開始したので、
しかし、羽田非難体制下にある権力の阻止線は、容易に突破しなかつた。16日午にわた
る徹夜の激戦は、まさにわれわれの戦いに終つたことを率直に認めなければならぬ。

たな、学友諸君。

われわれは二の斗争を準備した戦闘性と組織性は、ふたたび羽田に復元し、前大全
共闘の全面的な組織と、前大斗争の更なる進化、徹底化に参陣するであらう。